



創立150年

教育目標 わたしから考える子 にこにこ元気な子 つづけてがんばる子 こころを合わせる子
わにっこり

和邇小だより 令和6年 春休み号
児童数398名 文責 澤村幸夫



卒業証書授与式 3/18



3月18日(月)に卒業証書授与式を挙行了しました。数々の思い出を胸に、別れを惜しみながら、卒業生77名が本校を巣立ちました。在校生を代表して、5年生が参列し、卒業生の門出をお祝いしました。

6年生は、全校児童のリーダーとして多くの場面で活躍してくれました。「一心」を合言葉に、運動会で見せてくれた集団演技とパフォーマンスは、見る人の心を動か

す素晴らしいものでした。下級生からのあこがれの存在で、和邇小学校150年の歴史に、輝く1ページとして確実に刻まれました。その最高の演技を完成させるまでの苦労は並大抵のことではありませんでした。日に日に上達していく6年生の姿は、本当に感動的で、輝いていました。

修学旅行は、初めての宿泊でした。一緒に寝泊まりすることの意義をあらためて考えさせられました。防災学習をテーマに淡路と姫路を訪れました。小学校生活の楽しい良い思い出となりました。

4月からは中学生になります。中学校は社会に出る第一歩を踏み出すところですが、和邇小学校で培った「わにっこ」の合言葉「わたしから考え」「にこにこ元気に生活し」「つづけてがんばり」「こころを合わせる」ことは、社会で生きていく上で大事なことです。卒業後も実践し続けてください。時には、和邇小学校のことを思い出し、元気な姿を見せてくれることを期待しています。卒業おめでとう。そして、卒業生のみなさんの未来に幸せが多いことを陰ながら祈っています。

和邇小学校のホームページ

和邇小学校のホームページをご覧ください。子どもたちの様子を掲載しています。

学校だより「わにっこり」のカラー版は、和邇小学校のホームページから「学校便り」をクリックしてください。

「6年生を送る会」3/1



3月1日(金)、卒業を目前にした6年生に感謝の気持ちを伝えるため、5年生がリーダーとなり「6年生を送る会」が開催されました。4月から最高学年となる5年生は、実行委員会を組織し、会の企画について話し合い、アイデアを出し合いました。各学年からは、6年生に楽しんでもらえる内容を企画・準備し、当日は和やかに進行しました。6年生への感謝の気持ちと、これから学校を引き継いでいく決意が感じられる素晴らしい「6年生を送る会」となりました。ダイジェスト版として動画にまとめましたので、下のQRコードからご覧ください。

6年生を送る会

紙面配布のみ表示



期間限定 3/22~4/30



ご理解・ご支援・ご協力 ありがとうございます



早いもので、令和5年度の学校生活も、本日をもって終了します。過去4年間の新型コロナウイルスの影響を最小限におさえ、子どもたちに付けたい力を焦点化しながら、様々な教育活動や行事を実施して参りました。令和6年度も「わにっこ」の健やかな成長のための教育活動をさらに進めて参ります。保護者や地域の皆様には、本校の教育活動に多大なるご支援・ご協力をいただき、誠にありがとうございました。心より感謝申し上げます。

さて、今年度の学校だより「わにっこり」でシリーズ「子どものウェルビーイング」と題して、子どもの幸せについてヒントとなることを共に考えてきました。かけがえのない子どもたちの育ちについて、私自身が、多くの研修や書籍で学んできたことや、日頃から子どもたちと接する中で感じていることを述べてきました。子どもたちは、保護者や家族、地域の皆様との関わりの中で「自尊感情」を高めていただいています。人と人がかかわるときの言葉や振る舞いが、人の心を温かく包み込み、幸せな状態「ウェルビーイング」につながっています。

6年生が卒業した翌日からは、5年生を最高学年とした学校生活でした。登校班の様子を見ていると、新リーダーのもとでまとまって登校し、元気に挨拶してくれる姿がありました。子どもたちなりに新しい学年にむけての準備をしてくれているように思います。雨の日も雪の日も、交差点や辻ごとに立って、子どもたちの登下校の安全を見守ってくださいました多くのスクールガードや地域ボランティアの皆様、本当にありがとうございました。

年度末、子どもたちは、慣れ親しんだ学級の仲間や担任と離れることに不安やさみしさを感じるものですが、一方でこれからの新たな出会いにも期待が膨らみます。別れと出会いは、人生における大切な節目であり、大きく成長できる機会です。毎年のごときはありますが、期待や不安に心が揺れる時期ですので、お子さまの不安を少しでも和らげ、期待を大きく膨らませていただけるよう、温かな声掛けをよろしく願いいたします。

次年度の教育計画

重要

令和6年度は、これまで続けてきた「固定担任制」から「チーム担任制」に学校のシステムを緩やかに変える教育計画を立て、準備を進めています。

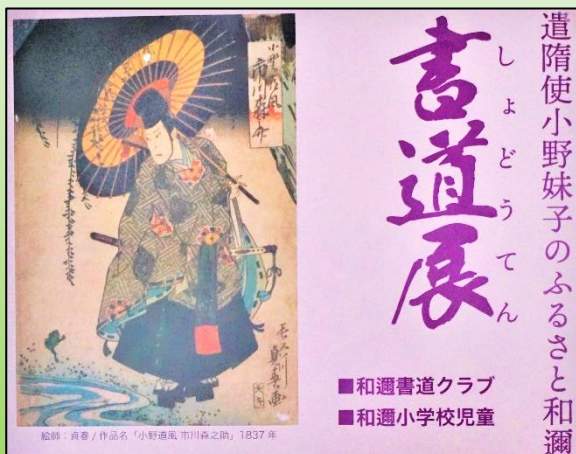
中学校では「教科担任制」といって、専門性をもった教師によるきめ細かな指導を可能としていますが、小学校においても、特に学習が高度化する高学年において、系統的な指導により中学校への円滑な接続を図りたいと思います。

また、「学年みんなが担任」を合言葉に、A組、B組には、それぞれ担任を配置しますが、学年全員の子どもたちを担任するという意識で関わりを持ちたいと考えています。これまでは学級担任や担任以外の教員が一部の教科を担当し、どの学級でも、ある教科を1人の教員が担当して指導していました。次年度からは、学びの質の向上のために、A組、B組の担任が授業を交換したり、時には定期的に担任が入れ替わり、朝の会・給食・掃除・帰りの会を行ったりします。

このシステムを採用する学年や教科、時期については、次年度の組織を固めた上で、定期的に評価・改善しながら取り組んで参ります。「課題」とは「次なる可能性を広げる」ものと捉えています。和邇小学校の良さを生かした新しい時代の取り組みにご理解、ご協力をよろしくお願いいたします。

書道展 3/21~3/31

和邇図書館の2階で、子どもたちの「書道展」が開催されています。ぜひご覧ください。



餅つき大会 !!

3月24日(日)
10:00~(図書館入り口)
数量限定&無料提供!



【書道展】

令和6年3月21日(木)~3月31日(日)

■場所: 大津市立和邇図書館 2F ■開催時間: 10:00~17:00
■主催: NPO 法人わにまづくり協議会 ☎077-594-2234

シリーズ ウェルビーイング 子どものWell-being 第13弾 「周囲の幸せ」



Well-beingとは、心身ともに満たされた状態を表すもので、「幸福」とも訳されます。生成AIの進展とともに、多くの脳科学者が、研究を重ね成果を上げてきました。子どもたちが、自分が幸せだと感じると、学びのパフォーマンスが向上し、学級や学校に良い影響をもたらすこととなります。当然、学力も向上し、意欲向上とともに生活が安定します。

では、いったいどうすれば、「子ども自身が幸せと感じるか」ということとなりますが、これまで「アクアリウムセラピー」「褒める→認める」「ポジティブな思考」「トライアンドエラー」「睡眠」「早起き 朝ごはん」「読書」「レファレント・パーソン」「失敗のすすめ」「非認知能力」「ポジティブと強み」「好奇心を育む」を取り上げてきました。最終回は「周囲の幸せ」について考えたいと思います。

子どものウェルビーイングを考えるにあたり、子どもに影響を与えるのは、いったい誰でしょうか。それは、まぎれもなく親であり家族であり、学校の先生であり、地域の方々です。では、その影響を与える親や教師や地域の大人は、みな幸せを感じているのでしょうか。周囲の大人が幸せであることが、子どものウェルビーイングに直結する、という研究結果が出ています。

私の知人にフィンランドの日本人学校に赴任した人がいます。フィンランドは世界幸福度ランキングで6年連続一位となった国で、よく「幸せの国」と言われます。いったい日本と何が違うのか、そういった疑問をその知人に投げかけてみました。返ってきた返事は「幸せなのかどうかは人によってそれぞれ違う」ということです。幸せというのは、人によって感じ方も違うし、その意味も異なります。しかも、同じ出来事が起こっても、人によって捉え方もまた違うということです。だから、フィンランドに行けば必ず幸せになれる、ということはないという答えでした。ただ、注目すべき点があります。その知人は、「赴任した3年間は本当に幸せだった」と言ったことです。その理由は「この国で出会った方々が私を幸せにしてくれた」ということでした。その知人が赴任した当時「なぜこんなに優しくしてくれるの？」という質問を同僚にしてみると、「それは自分自身が幸せだからだよ」と答えてくれたそうです。自分が満たされているからこそ、同僚にも子どもたちにも余裕をもった愛のある関わり方ができるのだということです。知人の周囲の人たちは、毎日のように「調子はどうだい？」と話しかけ、知人も決まって「すごくいいよ」と答えていたそうです。こうした相手を思いやるポジティブで幸せな連鎖が、あちこちで起こっているのだと思います。

教育は、子どもたちにとっても教師にとっても、ポジティブで楽しい経験であるべきだと思います。家や学校でみんなが楽しんでいて、身も心も安全だと感じているときこそが、子どもたちの学びが最高の状態にあるときだと思います。つまり、親も教師も幸せを感じながら子どもと向き合っているか、ということにつながります。教師の働き方改革が新聞等で報じられていますが、実は極めて重要な要素の一つであると感じます。

これまでの学校教育は、何か問題が起こると、その問題を取り除くことに集中してきました。そうすると、子ども自身は受け身になります。受け身になった子どもは、また問題が起こると、自分では解決できず周囲のせいになります。親や教師が何もしてくれないから問題が起きるのだ、となります。私たちが育てていかなければならないのは、ありのままの環境を受け入れて、その中で何ができるかを試行錯誤しながら自ら学んでいく子どもたちです。問題解決のために、主体的に考えていく経験を通して、関係性を学んでいくのです。幸せいっぱいの周囲の大人たちが深い愛情をかけ、子ども自らがポジティブに判断し行動に移していくことができるよう努めていきたいと思います。

そのためには、私たち大人(教師や親)自身が、いつも笑顔でいられるように、幸せを追求できるように、そしてそんな社会を、構成員の一人として、作っていけるように共に行動していきたいと思います。



学校のバイカラーディーバック
本文との関連はありません。



学校のニシキアナゴ
本文との関連はありません。